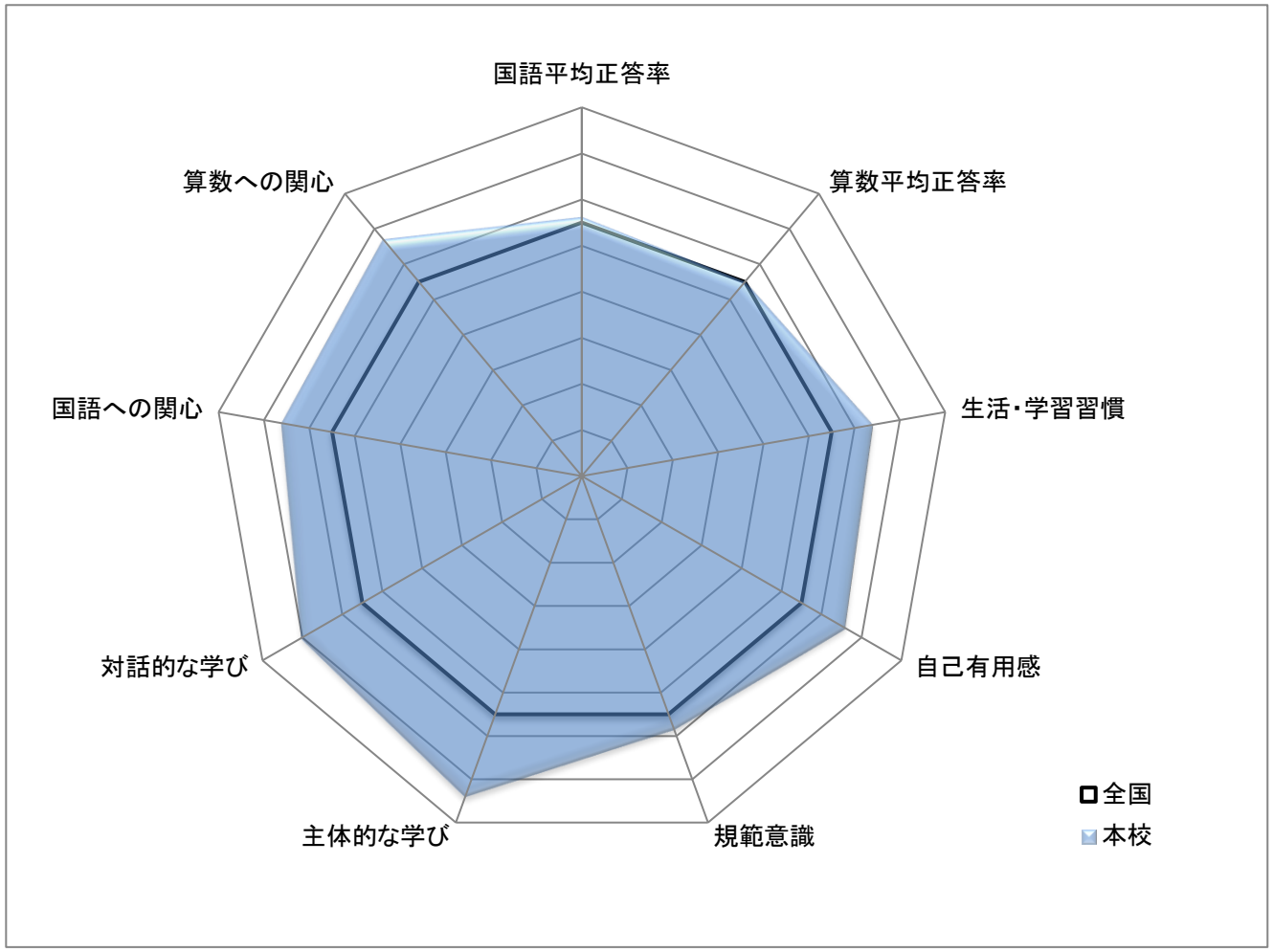
令和４年度全国学力・学習状況調査結果における課題分析表（小学校）

江戸川区立南葛西第二小学校

●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

教科別に、得点率をA層B層C層D層と分けた時、A層、D層の割合は、全国の割合とほとんど差がない。しかし、B層、C層を見た時、どの教科においても、B層は全国の1/2、C層は、ほぼ２倍いる。国語科の正答率を領域別に見た時「書くこと」は【本校55.3%　全国48.5%】「読むこと」は【本校72.4%　全国66.6%】と高いが、「話すこと・聞くこと」においては、ほぼ同等である。語彙の習得率も低い。また、算数科においては、特に低かったのが「図形」であった。

《授業改善のポイント》

今後、授業をするとき、学力中位の児童を対象とした授業展開をしながら、中位より少し上の児童には少しだけ難易度の高い発展問題に挑戦させ、中位より少し下の児童をできるだけフォローできるような授業を工夫していきたい。国語科の本問題において、児童が、「機械」と「機会」の同音異義語を十分理解できていなかったこと、話し手の意図を捉えながら聞くことができなかったことを受け、語彙量を増やす体験(例 読書など)、考えながら話を聞くことを意図的に、授業に取り入れていくようにする。また、算数科では、問題解決の方法、理由等を、言葉や数字を使って説明させる場面をたくさん設定しいきたい。

《チャートの特徴》

「主体的な学び」や「対話的な学び」など、学習に向かう態度は、概ね満足できる。また、国語科や算数科など、教科への関心意欲も高く、学習についての疑問や課題など、「自分の力で解決したい」「分かるようになりたい」「できるようになりたい」という気持ちを強くもっていることが分かる。学習に向かう態度は、よくできているものの、国語科、算数科共に、全国平均点と同等なので、今後は、授業時間外や家庭学習などでも、興味関心をもったことについて、自力で解決できるような学び方を身に付けさせたい。現在でも、自己有用感が高いが、自分で学習課題を解決し、満足感、達成感を得るような学習の成功体験をもっと積み重ねることで、自己有用感もますます高まり、国語科、算数科の正答率も高まってくるものと思われる。

《家庭・地域への働きかけ》

語彙力が不足していることを受け、小さいうちから、読み聞かせや親子読書など、活字や言葉に触れる機会を増やしていくように働きかける。また、学力が高い児童とそうでない児童との学力差が二極化しつつある。全家庭に、家庭学習の習慣化を促したい。